

向陽中学校は「人間賛歌が響き渡る学校」づくりを推進します

今年度の学校経営のキーワード

「チーム向陽 ～組織対応・説明責任～」

令和元年9月4日 杉並区立向陽中学校長 菅野 武彦

○ なぜ、人間賛歌が響き渡る学校なのか？

私は生徒が「学校が楽しい」・「向陽中学校が好きだ」といえる学校にしたいと思っています。なぜならば、こうした生徒の思いが学校生活の土台となるからです。私が見てきた向陽中生は学校生活を楽しむ術を心得ているかのように思えます。

向陽中学校は、教職員が気持ちと力を合わせ、生徒一人一人の命を輝かせ成長させる学校であることを目指しています。そして、生徒に「人として生きる」ための土台づくりをします。私は生徒に「生きるって素晴らしいな！」を実感させたいと思っています。人生は楽あれば苦あり、どちらかと言えばうまくいかないことの方が多いかもしれません。時には失望するようなことも必ずあります。人事を尽くして天命を待っても必ずしも報われるとは限りません。がっかりしたり落ち込んだり……。しかし、そうした苦難に立ち向かい、それを乗り越えたときの喜びは何物にも代えがたく、よりよく生きようとする人としての強さを実感できるようになります。生徒にとって「笑顔」は魔法にも似た力となり、「友情」はなくてはならないもの、そして「活力」は生命力にも通じ、いずれも人として生きる上で欠かせないものです。生徒のこうした姿こそ中学校のあるべき姿であり、多くの大人とともに生徒の成長を歓ぶ「人間賛歌」を一緒に歌いたいと考えています。

○ このような生徒の姿を実現するための「教育目標」（■は今年度の重点）

■ よく考える人   □ 思いやりのある人   □ たくましい人

○ 私が考える「めざす学校像」

生徒の成長を約束する学校

○ 1年間の学校生活目標を学期毎に示し、生徒が日々の実践と成長を実感できるようにする。そのために、「心に響く指導！」と「わからせる指導！」を土台として、個人としての成長を図り集団力を高める。

□ 年間を通して「自立的に活動できる生徒になろう！」

「自分軸 自分が決める!」(全校朝礼のテーマ)

□ 第1学期「明るい向陽を創ろう！」

□ 第2学期「たくましい向陽を創ろう！」

□ 第3学期「誇りある向陽を創ろう！」

○ 平成 31 年度の具体的な取組は？【抜粋】（※詳しくは学校経営計画を）

向陽中生を『自立した学習者』に育てるために

- 挑戦に伴う成功や失敗の経験を十分に積ませる。
- 自らの行動や活動の選択能力を磨く主体性に重点を置く。
- “何も考えずに当たり前のようにやる生徒”の意識を変える。
- “自分で考えないで指示待ちのみで人のせいにする生徒”の意識を変える。

- (1) 【学習指導】 2年間取り組んだ教育課題研究の成果（4人組グループ学習）を生かし、生徒が「能動的」・「対話的」に深く学ぶ授業に変えるとともに、生徒が「なぜ」を考え、「なるほど」を実感できる授業を実践する。また、できるだけ1時間の授業を「生徒の自力解決・グループでの協働解決・学級全体の斉検証」という3つの活動で構成し実践する。（よく考える人）
- (2) 【家庭学習】 必然性を伴う宿題や定期考査前の学習にしっかりと取り組ませる。特に、1年生では、「宿題ボード」を活用した宿題の見える化により、宿題に取り組む習慣を身に付けさせる。また、生徒に「自己選択と結果責任」を自覚させ、自発的な予習や復習などの家庭学習をうながす。（よく考える人）
- (3) 【特別の教科 道徳】 生徒が“考え対話する”授業を実践する。その際、「4人組グループ学習」を活用し、生徒の“発信・受信・共感・気づき”などをうながすとともにその様子を見取り、適切な評価につなげる。（よく考える人）
- (4) 【生活指導】 生徒同士の良好な人間関係や集団生活を阻害する「わがまま・いじり・嫌がらせ」をさせない指導を徹底する。また、様々な機会や場面を通して、生徒に“こんにちは”等のあいさつや、“ありがとう”・“ごめんなさい”等を日常的に言えるよう指導する。さらに、お互いさまの精神で困っている生徒に手を差し伸べる指導をする。（思いやりのある人）
- (5) 【いじめ対応】 いじめがあった時には、管理職への報告後、いじめ防止対策委員会で対応策を検討し、学級担任、学年体制、いじめ防止対策委員会を中心に学校全体で組織的に対応する。また、いじめ・不登校生徒に関する情報は企画委員会と職員会議で毎回確認を行う（平成31年度生活指導基本方針）。
- (6) 【自立的な活動】 学級活動・行事・部活動・委員会活動等の場面で、生徒に「がんばれ！自分。私がやる！」を求め実践を迫る。また、毎日生活する学級集団のなかで、生徒一人一人が自己の役割を果たしたり、学級全員で学級の課題を解決したりして、自己有用感を持たせ、自力で課題を解決する学級集団にする。（たくましい人）
- (7) 【ボランティア活動】 生徒が自ら捜してボランティア活動を行うよう指導するとともに、学校が紹介する地域等でのボランティア活動に参加するよう指導する。また、ボランティア活動を行った生徒名等を1階掲示板で知らせる。

○ なぜ「チーム向陽 ～組織対応・説明責任～」なのか？

「チーム向陽」はその名のとおり、向陽中学校の教職員がチームワークを大切にして力を合わせることで、副題の「組織対応・説明責任」は、学校が組織的に対応することと、生徒・保護者・地域等に対してしっかりと説明しその責任を果たすことです。この1年、「チーム向陽～組織対応・説明責任～」を全教職員での共有と実践を図ります。